

**「首里城復元に向けた技術検討委員会 報告会」  
アンケートでいただいた自由記載のコメントについて**

---

**内閣府 沖縄総合事務局**

令和4年1月30日の「首里城復元に向けた技術検討委員会 報告会」で実施しましたアンケートについて、自由記載でいただいたコメントについても、以下のとりまとめましたので報告いたします。(※個人情報に関する記載は事務局にて削除しています。)

## 【報告会全体について】

- ・このような報告会が開催されてたいへんよかった。
- ・本日の報告会に対しての詳細な資料ありがとうございます。読み込んで理解していきたいと思います。
- ・龍柱等で色々と意見のある中、とても勇気のある報告会だったと思います。大変お疲れさまでした。ありがとうございました。
- ・伊従先生の発表がおもしろいと感じました。首里城を使うという視点での話は今まで考えたことなく、確かに重要な視点だと実感しました。また、首里城の龍と衣服の龍、つまり、竜の使い方に興味を持ちました。ありがとうございました。
- ・全体に大変良かったと思います。
- ・学術研究の更なる進展を期待しています。伊従委員の清朝期の研究は特に注目しています。
- ・本日は首里城復元に向けた技術検討委員会の報告会を催して頂き興味深く拝聴させていただき、感謝しております。委員の皆様の詳細な資料を今後、「資料館」「首里城資料館」等を設立して、保存・運用されたらと思います。貴重な資料を来世に残す為、また、首里城を詳しく紹介することが必要かと思われます。火災にも強い建物を建築し、法務部や学芸員を揃えて、資料の利活用を行って欲しいです。今日は長時間、誠にありがとうございました。

## 【報告会全体について（続き）】

- ・ 首里城の復元について、さまざまな角度から議論されている事に感動しました。
- ・ 先生方がどれだけ緻密な研究をなさっているかを実感できました。西村先生も同様に学術的な面からしっかり研究なさっていると思います。様々な意見をお持ちの方々の”事実”による議論がこれよりも活発化していくことを願います。根拠不明瞭な批判にあうことが委員会の先生方、西村先生両者にあることと思いますが「学問」という面にぶれずにこれからも頑張ってもらいたいです。ありがとうございました。
- ・ 色々な意見がありますが、しっかり事業を進めていただきたいと思います。
- ・ 首里城の復元をもとにさまざまな資料から首里城の復元を行っていることがわかった。絵や写真などをもとにしたりと沖縄の歴史を知る機会になったのでよかったと思う。研究によって新しく見えてくる首里城が見えたりそういった見方もできることなどを知れて研究を負けず頑張ってもらいたいと思う。
- ・ 学術研究分析がしっかりとなされ、わかりやすい説明で刺激的内容でした。今後の分析と修正等を期待します。
- ・ 報告会は今後も定期・不定期で開催して戴きたい。（建設（工事着手後も）に入っても施工状況等の報告も検討ください）
- ・ 資料・動画をHPに公表してほしい（行政的でなく説明資料）、残してほしい（安里先生のパウポも含めて）

## 【報告会全体について（続き）】

- ・多くの感染者数が報道されるなか、このような報告会を開催いただき、誠にありがとうございました。今後も検討委員会の検討状況を踏まえて、首里城の復元について、自身も考えていきたいと思えます。また、当時の膨大な資料から、多くの専門家による検討がなされた上で、復元の方針を定めていることを改めて認識しました。このような報告会を通じて、県民、国民に情報を伝えていくことは大切だと思いましたので、定期的を開催いただけると嬉しいです。検討委員会（これまで開催された）の資料を読むだけでは感じられなかったことを、先生方の声で直接、ご説明いただくことで知ることができました。運営事務局の方々も含めて、今回の報告会を開催くださいます、ありがとうございます。
- ・熱量がありすぎる参加者がいる（研究に携わっていましたが、研究発表の場でのヤジ？は初めて見ました）一方、委員の先生方の琉球の先人達に迫ろうとされる気迫と覚悟に感銘を覚えました。今年、首里城正殿が着工とのことですが、このような説明会を今後も開いていただきたいです。
- ・首里城がどのような過程を経て再建されるのか非常に興味があります。実際に再建中の首里城や今日のような報告会には足を運ぶことはできませんので、オンラインで情報が公開されることが非常に有り難いです。これからもリアルタイムまたはアーカイブでの情報公開をお願いします。
- ・一方的な報告・説明のみで、議論することができない。何のための報告会か。報告会をやったという既成事実作りにやっているとしか思えない。結論ありき！大龍柱の向きについて議論できる機会を設けてください。公聴会の開催を！
- ・①不十分な説明である。②将来に禍根を残す。

## 【質疑応答について】

- ・ 質疑応答で西村先生の発言の機会があればよかった。
- ・ 一方的な発言であった。特に絵図については疑問点が多い。
- ・ 西村氏を超える専門家が今の検討委員にいるのか、についても回答が無かった。
- ・ ①不誠実な説明会でした。②国民県民を軽視し、税金のムダづかい。③専門性のない説明でした。質問にもきちんと答えていない。④質問と回答は公開してほしい。⑤公務のあり方に問題を残したと思う。
- ・ 質問状に対する回答を県民に公開してもらいたい。よろしく願いいたします。
- ・ 今日コロナ対策で、質疑応答がないのは仕方がないが日を改めて、ちゃんとしたシンポジウムを開くのが当然である。このような一方的な回答では意味がない。質問が既に説明されたことばかりで時間稼ぎか？私が出した質問の中で①～④のうち④をわざわざ聞くのはなぜか？①が重要と分かるはず、なぜ聞かない。

## 【大龍柱について】

- ・ 安里委員の大龍柱の向きの検討経過についての根拠説明がとても分かりやすく、納得しました。もう少し詳しく聞きたいので講演会で解説をお願いしたいです。これからも継続的な研究をお願いします。ありがとうございました。
- ・ ①質疑応答で質問した方が委員から勘違いの回答に対し、挙手したがそれを無視したこと。②質問に対する回答が委員の間で異なっていた。資料内容も違っている。③平成の再建基本方針で出てくる年代の根拠資料・検討結果を示しているが大龍柱の向きはいずれも正面向きとなっているが暫定的に相対向きとすることは矛盾しているのではないか。
- ・ ①外見はルヴェルテガの写真が参考にできないのはなぜ②平成の復元は1712—1925を復元するのに（正面向き） どうして向き合う形なのか③質問への回答は一方的で消化不良。
- ・ 首里城の復元は沖縄の将来に希望をもたらす形で復元されるべきである。龍柱が無言で相対する形では沖縄の将来に希望をもたらさない。平和記念公園にある山田氏による「仏像は人々の心に平和の心を植えつけるが、相対する無言の龍柱は意味がない」
- ・ 「寸法記」の絵図の中には誤りがあるものも存在するにもかかわらず、大龍柱の向きについては「寸法記」の通りとするには説明が不十分。古文書と写真の矛盾を説明できていない。逆にどうして相対向きにこだわった説明や推測を基にしようとするのか不思議に思った。
- ・ 来訪者：お客様をお迎えするときには来訪者に正面向いて、目を見て柔和に歓迎の体を表すのが、普通の人の“あたりまえ”であると考えます。あっち向いて横目で待つのは、冷たすぎます。これ以上でもこれ以下でもありません。龍柱に私の意を期待します。

## 【大龍柱について（続き）】

- ・ ①安里先生・伊従先生の報告は大変勉強になりました。②伊従先生の話（冊封時の正殿図や唐衣装の正龍・行龍の違いなど）よく理解できました。→個人的には大清会典に龍の向きについて規定があることから、正式な記録には、正龍ではなく、向かい合う龍を描き、冊封使節が帰ってからは、正面に向けた（権威の象徴として）のでは、（台座に龍柱をのせて唐は向きを変えるのは可能）と思いました。この考えだと1877年の写真の意味が分かる。※個人的な感想です。冊封使が来る時期にまた向きを変える？→記録に残したりしない？
- ・ 大龍柱の議論について①各専門家の意見は平行線②正面、相対の意味するものが重要。年代によって変化があったとすればその理由を解明し、両方が現実にあったとすれば説明書を加え、可変式にしたらどうでしょうか。※完全な復元、いつの時代の復元か明確にすべき。不明瞭な部分は引き続き調整検討し、結論がでた部分から修正したらどうか
- ・ 争点となっている大龍柱の向きについて、学術的な説明があり、質疑応答にも応える機会ができたことはいいことだったと思います。先生方のお話にもあったとおり、県民や首里城を思うひとたちの、意識が高いためと思われます。今後も、こういった中間報告や段階報告、また別の議論があるときなど、定期的に報告会を、オンサイト・オンラインのハイブリッドで行っていただけると幸いです。また、司会の崎山さんも、コロナ対策のために発言しないように、等、毅然とされていたことが印象的でした。



## 【根拠資料について】

- ・ 本日、予定があり、途中からの参加のため、質問時間までに質問が出来なかったもので、こちらに投稿させていただきます。寸法記の古文書的価値の重要性は否定するものではありませんが、寸法記の来歴（写しの年代）の正確な表記、特にマスコミ・メディア、学術資料での表記は今後、訂正をご検討をお願いいたします。現在、専門家の方々以外の一般県民は、その表記が無いため往時のものだと誤解があるように感じます。また、書かれた（写した）人物の確認は現在未確定だと思います。王府の筆写を担当する方々と思いますが、古文書としての重要性を損なうことではないと思いますので、正確な情報の提供をよろしくお願いいたします。
- ・ 復元をしていくために、たくさんの資料を集め、そこから分析し、その資料自体にも正確性があるのかを他の資料から精査していき、すごく検討されていることを強く感じました。大龍柱を含め、年代によって様式を変えていることはとても分かり易く、根拠もしっかりしており、驚いたと同時に、どの年代に定めて復元していくのか検討するのは難しい作業だろうなと思いました。今後も難しい検討作業が続くと思いますが、完成をととても楽しみにしております。



## 【瓦類について】

- ・委員の安里氏が総赤瓦でないと結論しながら、なぜ総赤瓦屋根の首里城正殿に復元されるのか意味不明。「県内で灰色瓦を焼成することが現状では困難」とあるが、そもそも復元で使用される赤瓦も王国期の製法ではない。灰色瓦と赤色瓦の比率が分からないというが、近代期に新規購入した赤瓦（黒塗りの可能性が高い）の総数を下限として逆算する手もあるし、?敷遺構の混色度合いから類推する手もある。1枚も灰色瓦の入らない正殿は明らかに誤りである。高名な先生方が集った委員会を経て学問の装いを持たせている点でも、歴史イメージの誤発信という点でも絶対に避けるべき。
- ・最先端の研究成果を伺える貴重な機会を設けていただきありがとうございました。会場の質問が大龍柱の向きに集中してしまいましたが、令和の復元で変更になる瓦の模様や塗装の材料が決定した経緯について、聞きたかったです。

## 【当日の運営について】

- ・ ①規則を守らない人はただちに、退場させて下さい。（それを前提として参加させてください）（司会者がかわいそうです）②このような報告会を行うことで首里城正殿の再建を目で見えることで県民の理解を諮ることができるので、これからも開催してください。
- ・ ①開始1時間ほど寝ている人がおり、イビキがうるさく困りました。途中で近くの人が注意しており、そこからは気にならなくなりましたが、開始のアナウンスや講演中の見回りなどで注意して頂けると助かります。②大声で質問をしている人がおり（公演中に）、途中で講演者の話が途切れるのでやめていただきたかったです。司会の女性は大変だったかと思えます。心中お察しいたします。今後、同様の事態となった場合はご退席も考えていただけると幸いです。新型コロナだけではなく静かに講演を傾聴している方々に迷惑であることも伝えるべきだと考えます。
- ・ ①限られた時間の中での質疑応答なので、事前にもう少しまとめた上で委員の方々に質問をしたほうがよかった。②また開催していただきたいが、大きなひとつの会場でやって欲しい。
- ・ 野次は困りました。
- ・ ①質問も回答もはっきり聞こえずに理解できなかった。②言葉がはっきりせずに（マスクのせいかな）理解できなかった。③要点を簡潔に話してほしかった。④森口氏の言葉は明解でよく理解できてよかった。⑤正面、横向き、歴史の色々あることは事実である。きりが無い。全部かなぐりすてて令和の新たな向きを考えるべきではないでしょうか。美意識・感慨・英知を絞って令和らしい歴史を残してほしい。

## 【オンライン配信等について】

- ・ YouTube配信が所々でフリーズし聞き取れなかったのが残念。
- ・ YouTubeで参加させていただきました。通信、画質などは問題なかったのですが、音質がこもった感じで先生方の発言が聞き取りづらい印象でした。とても興味のある報告内容、質疑応答でしたのでYouTubeの画面に釘付けになりました。高良先生のご説明とお考えが明確で、一般人の自分にもとても分かりやすかったです。
- ・ ①別室での映像視聴は機器の故障もあり、内容が不明瞭であった。②マスクのせい聞きづらかった。